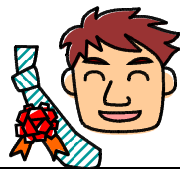


進路だより

No. 6



新宿区立落合中学校

2021年6月7日(月)

知っておきたい進路用語(都立高等学校編)

5号に引き続き、6号では都立高等学校入試でよく使われる進路用語を紹介したいと思います。

・『換算内申』

調査書の各教科の評定を、試験科目の5教科の単純合計と他の実技4教科の合計を2倍したものとの合計を換算内申といいます。

国語	数学	英語	社会	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭
4	3	4	3	5	3	4	4	3

$$(4 + 3 + 4 + 3 + 5) + (3 + 4 + 4 + 3) \times 2 = 47 \text{ (換算内申)}$$

・『調査書点』

全日制の第一次募集・分割前期募集は、原則すべての都立高校で学力検査が5教科となります。調査書点とは学力検査のある国語、社会、数学、理科、英語の評定合計と、学力検査のない実技4教科(音楽、美術、保健体育、技術・家庭)の評定合計を2倍したものの合計のことをいいます。なお、「芸術に関する学科」「体育に関する学科」は実技検査があるため、学力検査が3教科となります。

・『学力検査と調査書の比率』

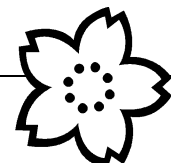
全日制の第一次募集・分割前期募集は、原則すべての都立高校で、学力検査と調査書の比率は「7:3」になります。なお、「芸術に関する学科」「体育に関する学科」は、学力検査が3教科となるため「6:4」の比率になります。

・『総合得点』と『総合成績』

学力検査の得点と調査書点の合計を総合得点といい、1000点満点とします。全日制の第一次募集・分割前期募集の学力検査と調査書の比率は「7:3」なので、換算後の学力検査の得点は700点、調査書点は300点がそれぞれの満点となります。ただし、各高校で行われる学力検査は、傾斜配点を行う高校もあるため、学力検査の満点は高校によって違ってきます。したがって、入試での得点そのまま学力検査の得点になるのではなく、700点満点に換算した数値が学力検査の得点となります。調査書の方も65点満点(すべての評定が「5」の場合)を300点満点に換算したものが調査書点になります。この総合得点に面接点、作文点、小論文点、実技検査点を加えたものが総合成績になります。

・「応募倍率」「受験(受検)倍率」「実質倍率」

「応募倍率」とは応募数を定員数で割った数値のことをいい、都立入試では願書の再提出後の応募倍率を最終応募倍率といいます。「受験(受検)倍率」とは当日に受験(受検)した人数を定員数で割った数値。「実質倍率」とは受験(受検)者数を合格者数で割った数値のことをいいます。



・『男女別定員制の緩和』

都立高校の普通科（コース・単位制を除く）は男女別の定員を設定しています。「男女別定員制緩和」を実施する学校では、それぞれの募集人員の9割までを別々に選抜し、残りの1割については男女合同での選抜となります。例えば定員が男女各100名ずつの学校ならば、それぞれ90名までは別々に合格者を決め、残りの10名ずつ（計20名）については残っている人の中から男女に関係なく合格者を決めます。したがって、男子よりも女子のレベルが高い学校で男女別定員制緩和を実施すれば、合格ラインぎりぎりに位置している女子にとってやや有利になります（上の例でいうと、女子の合格者は最高で110名となります）。逆に言うと、この場合男子の下位層にとっては厳しくなるということです。

・『分割募集』

一般入試の募集人員をあらかじめ分割し、第一次募集期間における募集を分割前期募集とし、第二次募集期間における募集を分割後期募集として2回にわけて募集を行うことです。ちなみに通常の二次募集は、一次募集で定員に満たなかった場合にのみ実施するもので、必ず実施するものではありません。

・『学力検査問題の自校作成』

その高校独自（自校）で作成した学力検査問題を3教科（国語、数学、英語）と都立高校共通問題2教科（社会、理科）により学力検査を実施することです。過去の例から推察すると、自校作成問題は、都立共通問題と比較して、問題の難しさはもとより、量の多さから問題を解くスピードが求められます。また、英語の長文のなかに数学的な力を試される問題が出題されたこともあるため対策が必要となってきます。

・『傾斜配点』

コース制、単位制、専門学科、総合学科などで実施している方法で、英語の得点を2倍にするなど特定の教科の満点の点数を変えることをいいます。多摩科学技術高校では、数学と理科を1.5倍、コース制の小平高校（外国語）では英語2倍、英語を自校で作成する国際高校でも英語を2倍とする傾斜配点を実施されています。

・『個人面接』と『集団面接』

個人面接は受検生1人に対して試験官が1、2名で質問をしていく形式です。答えの中身よりも身だしなみや落ち着いた受け答えの姿勢が重視されることもあります。一方、集団面接は、複数の受検生が一緒に行うもので、質問に対して順番に答えていく場合や挙手をして答える場合などがあります。積極性や人の意見や考えに対する対応力が試されるのが特徴です。

・『集団討論』

平成25年度入試から導入されたものです。主に受検生のコミュニケーション能力を図る目的で実施されています。5、6人のグループで与えられたテーマに対して話し合いを行うものです。担当の教員が司会をすることもあれば、受検生に司会を任せることもあります。ちなみに昨年度入試ではコロナ感染症対策のため、実施されませんでした。

・『本校の期待する生徒の姿』

都立高校がこんな生徒に入学してもらいたいという、具体的な例が挙げられている冊子です。推薦や一次募集・分割前期で面接を実施する場合には、出願時に「本校の期待する生徒の姿」に沿って記入した自己PRカードを提出することになります。

